

## 重要取組シート

ICT イノベーション推進室

取組項目	デジタルファーストの推進
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○DXを推進する上では、デジタル化により収集したデータを活用して、業務プロセス全体の見直しや新たな価値を創出することが欠かせない。</li> <li>○全庁でデータに基づく政策形成（EBPM）や行政データの利活用が進んでおらず、活用可能なデータについても限定されている。</li> <li>○EBPMを進めるために、分析するデータの収集及び共有、職員の分析スキルの向上、分析データの活用方法の整理について取り組む必要がある。</li> <li>○デジタル技術の登場以前に確立され、書面・対面といったアナログ的な手法を前提とする法制度やルール、いわゆるアナログ規制は、デジタル技術の社会実装を阻みデジタル化の妨げとなっている一面があり、その見直しに取り組んでいる。</li> <li>○日進月歩で進化するデジタル技術やデータの重要性を理解し活用できるように、市職員のリテラシーを向上させることが肝要である。</li> </ul>
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ利活用の推進 全庁で EBPM を推進するため、政策企画部と連携して令和7年度からの取組の方向性を明らかにし、進め方について庁内で認識を統一した上で、データ利活用の機運醸成を図る。</li> <li>○アナログ規制の見直し 規制所管部局が主体的に取り組めるよう行政部と連携して伴走支援を実施し、条例等の規定改正を実施する。</li> <li>○職員のリテラシー向上 デジタル技術やデータ分析について必要な知識やスキルを習得できるよう研修を行い、全職員のリテラシーの向上を図る。</li> </ul>
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>○データ利活用の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>□（4月）先行事例の調査</li> <li>□（5月）データ利活用の取組の進め方を決定（ICT戦略推進本部会議）</li> <li>□（6月～）EBPM研修、庁内データの調査</li> <li>□（8月～）EBPM事例の創出</li> </ul> </li> <li>○アナログ規制の見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>□（随時）アナログ規制の見直し相談</li> <li>□（5月）条例・規則の改正とりまとめ</li> <li>□（8月）条例・規則の改正</li> </ul> </li> <li>○職員のリテラシー向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>□（4月～）「わかる」、「つかえる」、「つくれる」の3段階でICTリテラシー向上研修を実施</li> <li>□（5月）kintoneを活用したデジタルツールごとの人材管理アプリ（所管課で必要となるデジタルツールを使える人材の管理アプリ）の構築</li> <li>□（5月）Teamsを活用したデジタルツールに関する情報共有の実施</li> </ul> </li> </ul>

	後期 (～3月)	<input type="checkbox"/> データ利活用の推進 <input type="checkbox"/> (2月) EBPM 事例の報告及び次年度以降の取組決定 (ICT 戦略推進本部会議) <input type="checkbox"/> アナログ規制の見直し <input type="checkbox"/> (12月) 条例・規則の改正 <input type="checkbox"/> (12月) 要綱・要領の見直し <input type="checkbox"/> 職員のリテラシー向上 <input type="checkbox"/> (11月) ICT リテラシー状況確認アンケートの実施	
	次年度 以降	<input type="checkbox"/> データ利活用環境の整備 <input type="checkbox"/> リテラシー向上研修の継続	
進捗の 状況	前期 (～9月)		
	後期 (～3月)		
2025 堺市基本計画	該当する 施策	4- (1) 行政のデジタル化、スマートシティ推進による暮らしの質の向上	
	寄与する KPI	行政手続きのオンライン化率 (地方公共団体が優先的にオンライン化を推進すべき手続) [現状値 : 98.1% (2024年度) ]	目標値 (2025年度) 100%
未来都市計画 堺市SDGs	最も貢献する SDGsのゴール	ゴール番号 16	平和と公正をすべての人に
	寄与する KPI	-	目標値 (2025年度) -